

<【第4期】特定健診・高齢者健診検査項目（抜粋）>

検査項目		検査の説明
身体計測	内臓脂肪面積	CTスキャン等で測定した腹部の断面画像にて内臓脂肪の占める断面積。腹囲に代えて測定した場合に表示します。
	BMI	「体重 (kg) ÷身長 (m) の二乗」で算出する値で、身長に対する体重の程度を表す指標です。
血中脂質	空腹時中性脂肪・随時中性脂肪	中性脂肪は体内の中で最も多い脂肪のことで、数値が高いと、脂質代謝異常が疑われます。空腹時中性脂肪とは、絶食10時間以上後に採血が実施されたもので、随時中性脂肪とは、食後10時間未満に採血が実施されたものです。
	HDL-コレステロール	いわゆる善玉コレステロールと呼ばれるもので、数値が低いと、脂質代謝異常が疑われます。
	LDL-コレステロール	いわゆる悪玉コレステロールと呼ばれるもので、数値が高いと、脂質代謝異常が疑われます。
	Non-HDLコレステロール	総コレステロールからHDL-コレステロールを除いたもの。中性脂肪が400mg/dl以上又は食後採血の場合にLDL-コレステロールに代えて評価した場合に表示しています。
肝機能	AST (GOT) ・ALT (GPT) ・γ-GTP (γGT)	肝臓等に存在する酵素で、数値が高いと、肝障害等が疑われます。
血糖	空腹時血糖・HbA1c・随時血糖	血糖は血液中のブドウ糖のことで、数値が高いと、糖尿病等が疑われます。空腹時血糖とは、絶食10時間以上後に採血が実施されたもので、随時血糖とは、食事開始後から3.5時間以上10時間未満に採血が実施されたものです。HbA1cとは、過去1～2か月の血糖値の状態を反映した指標です。
尿	尿糖	糖尿病等の場合に尿中に糖が出現する場合があります。
	尿蛋白	腎臓の障害により尿中に蛋白質が出現する場合があります。
貧血	赤血球・色素量・ヘマトクリット値	血液中の赤血球や赤血球に含まれる成分の量を表したもので、数値が低いと、貧血が疑われます。
血清	血清クレアチニン値	腎臓の機能の低下にとともに、体内に蓄積する血液中の成分です。数値が高いと、腎臓の機能の低下が疑われます。
	eGFR	血清クレアチニン値等より算出する腎臓の機能の指標で、数値が低いと、腎臓の機能の低下が疑われます。
心電図検査	心電図検査	心臓の電気的な活動の様子をグラフの形に記録することで、不整脈等があるか確認します。
眼底検査	眼底検査	眼の奥の血管等の状況を観察し、高血圧や糖尿病といった眼の合併症等の状態を確認します。眼底所見には様々な分類方法があり、眼底検査で確認した所見を元に分類しています。（全ての分類方法で分類していない場合があります。）
	キースワグナー分類	高血圧性変化の分類で、0群からIV群までに分類されます。段階が進むほど重症であることを示しています。
	シェイ工分類	H（0～4度）は高血圧性変化を、S（0～4度）は動脈硬化性変化を指します。段階が進むほど重症であることを示しています。
	SCOTT分類	糖尿病性網膜症の状態をI a度からVI度までに分類しています。段階が進むほど重症であることを示しています。
	Wong-Mitchell分類	循環器病のリスク評価の観点から「所見なし、軽度、中等度、重度」の4段階に分類しています。段階が進むほど重症であることを示しています。
	改変Davis分類	糖尿病性網膜症の状態を「網膜症なし、単純網膜症、増殖前網膜症、増殖網膜症」の4段階に分類しています。段階が進むほど重症であることを示しています。